

平成24年度岡山県農林水産総合センター農業研究所試験研究課題評価票

<事前評価>

総合評価凡例 5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当
 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い
 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要

課題名	大規模経営に対応した効率的な稲作システムの確立						
課題の概要	大規模稲作経営が求める稲作栽培技術とその効率的運営方法を解明するとともに、省力・低コスト化技術を確立し、立地や経営条件に最適な稲作システムを確立する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	2人	4人	人	人	人	4.3
	有効性	人	6人	人	人	人	4.0
	効率性・妥当性	人	5人	1人	人	人	3.8
	総合評価	人	6人	人	人	人	4.0
助言・指摘事項等	<p>1 稲作経営の規模拡大とそれに伴う低コスト・省力化対策は極めて重要であり、高齢化等による農業の担い手不足も心配されることから、農業研究所の試験課題として重要であり、成果を期待する。</p> <p>2 本技術は自給的小規模経営にも十分に普及できる内容を含んでいる。</p> <p>3 輪作体系を基本とする稲作システムが重要と考える。</p> <p>4 大規模稲作経営においては、収支バランスによる適正規模や経営類型を考慮することが重要である。</p>						

課題名	ビール大麦「スカイゴールデン」の高品質安定生産技術の確立						
課題の概要	奨励品種採用予定の「スカイゴールデン」について、大規模経営に適用でき気象や生育の変動があっても高品質安定生産が得られる栽培技術を確立し、水田農業の発展に資する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	1人	4人	1人	人	人	4.0
	有効性	1人	4人	1人	人	人	4.0
	効率性・妥当性	1人	4人	1人	人	人	4.0
	総合評価	1人	4人	1人	人	人	4.0
助言・指摘事項等	<p>1 本研究課題が達成できれば、農家にとっては、販売先・販売量・販売価格等が安定し、農業経営が安定することから、経営計画の立案もやりやすくなる。</p> <p>2 昨今の異常気象下では、タンパク質含量の適正化技術は難しいと予想されるが、タンパク質含量の制御に貢献する基礎データを蓄積するとともに、「スカイゴールデン」の栽培方法を確立していただきたい。</p> <p>3 県南・北部の両地帯での作付けを考慮する必要がある。</p>						

課題名	「シャインマスカット」の省エネルギー型温度管理体系の確立						
課題の概要	次世代フルーツである本品種の加温栽培による贈答需要期の7月出荷が求められているが、近年の原油価格の高騰によりブドウ加温栽培の拡大には燃料コストがネックになる。このため、高品質化と省エネ化が同時に図られる温度管理体系を確立する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	3人	3人	人	人	人	4.5
	有効性	3人	3人	人	人	人	4.5
	効率性・妥当性	1人	5人	人	人	人	4.2
	総合評価	3人	3人	人	人	人	4.5
助言・指摘事項等	<p>1 シャインマスカット需要の将来性は、大変有望と思われる。しかも、栽培管理方法の工夫により省エネで栽培できるとなれば、農家所得の増加に大きく貢献することから、農業研究所が取り組むべき重要課題と考える。</p> <p>2 技術確立の可能性は高く、早急に省エネルギー型温度管理体系を確立し、シャインマスカットのブランド化を早めるべきである。</p> <p>3 省エネルギー型加温栽培は、昨今の状況の下で重要な意味を持っている。とりわけ資材費の高騰に対する技術的対応は不可欠である。</p> <p>4 燃料使用と平均作柄による収支バランスを評価する本実証は必要と考える。</p>						

課題名	促成ナスの日焼け果防止技術の確立						
課題の概要	生産者が低コストで簡便に実施できる方法によって日焼け果の発生を防止し、販売不能果の多発や等級の低下を回避する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	2人	4人	人	人	人	4.3
	有効性	人	6人	人	人	人	4.0
	効率性・妥当性	人	5人	1人	人	人	3.8
	総合評価	人	6人	人	人	人	4.0
助言・指摘事項等	<p>1 岡山県特産のナスの生理障害への対策であり、岡山ブランドを維持するためにも取り組むべき重要な課題である。</p> <p>2 低コストで農家が導入しやすい技術開発であり、技術開発後の普及は極めて迅速に行われるものと考ええる。</p>						

課題名	岡山オリジナルフラワーの次世代品種の開発						
課題の概要	これまでにない花色や耐暑性等の新形質を持つスイートピー品種及び様々な花色を持つ付加価値の高いラークスパー優良品種を育成する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	1人	3人	2人	人	人	3.8
	有効性	1人	5人	人	人	人	4.2
	効率性・妥当性	人	4人	2人	人	人	3.7
	総合評価	人	5人	1人	人	人	3.8
助言・指摘事項等	<p>1 県独自のスイートピー、ラークスパー新品種作成を目指すもので、県民への貢献も期待できる。</p> <p>2 岡山県の花として売り込んでいくには、短期間に新品種導入をより多くの農家に普及していく必要があり、普及との連携も重要と思う。</p> <p>3 「色」だけではなく「におい」の研究もしてはどうか。</p> <p>4 品種特性の固定、採種、種子増殖の課題に十分取り組む必要がある。</p>						

課題名	堆肥と化成肥料を混合した新規肥料設計技術の開発						
課題の概要	特別栽培農産物等の環境保全型農業を推進するために、耕種農家のニーズにあうよう堆肥に化成肥料を混合し、肥効を調節した新規肥料を設計・開発する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	2人	4人	人	人	人	4.3
	有効性	2人	4人	人	人	人	4.3
	効率性・妥当性	1人	4人	1人	人	人	4.0
	総合評価	2人	4人	人	人	人	4.3
助言・指摘事項等	<p>1 肥料登録が必要となるが、付加価値は高められる。配合割合を変え、用途別に最適な肥料を開発していただきたい。</p> <p>2 大変重要な取組であり、この技術が開発されれば、従来から使用面で苦労していた「家畜ふん堆肥」の需要量が飛躍的に増大するものと思われる。畜産農家にとってもメリットが大きい。</p> <p>3 J Aグループでは、土地にあったP Bブランド肥料の提供を考えているので、J Aグループとの連携及び情報交換を図る必要がある。</p> <p>4 試作ではあるが、製品の性能の安定度や利用方法などについて、十分な検討が必要である。</p>						

平成24年度岡山県農林水産総合センター農業研究所試験研究課題評価票

<事後評価>

- 総合評価凡例 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた
 3：一定の成果が得られた 2：見込んだ成果を下回った
 1：成果が得られなかった

課題名	機能性を重視した有色大豆の選抜と育成						
課題の概要	機能性成分と食味関連成分等が高く、栽培特性に優れる有色大豆を選定する。また、その成分特性等と収量を高める栽培技術を確立し、地域特産物として産地化に資する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	1人	2人	3人	人	人	3.7
	有効性(効果)	1人	2人	3人	人	人	3.7
	有効性(目的以外の成果)	人	5人	1人	人	人	3.8
	効率性・妥当性(費用対効果)	1人	1人	4人	人	人	3.5
	効率性・妥当性(計画)	人	1人	5人	人	人	3.2
	成果の活用・発展性	1人	4人	1人	人	人	4.0
	総合評価	人	4人	2人	人	人	3.7
助言・指摘事項等	<p>1 機能性や食味に優れた有色大豆品種を選抜し、栽培法を解明したことは高く評価できる。今後、産地化を図るとともに、県あるいは機関レベルでの課題として、加工適性等を見極め、6次産業化（トクホの取得できる製品開発など）への取組支援を充実する必要がある。</p> <p>2 各大豆の機能性を明確にし、食品加工メーカー等への販売において、農家側へのサポート体制を充実する必要がある。</p> <p>3 選定品種の普及・定着に向けた取り組みが必要（普及との連携）である。</p> <p>4 ブランド化を図り地域遺伝資源の利用を図っていただきたい。</p>						

課題名	温暖化に対応した水稻の品種選定と栽培技術の確立						
課題の概要	温暖化が進展しても高品質が維持される良食味品種を選定するとともに、高品質で良食味米が生産できる省力的な栽培技術を確立し、高品質・良食味米の安定生産に資する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	人	3人	3人	人	人	3.5
	有効性(効果)	人	2人	4人	人	人	3.3
	有効性(目的以外の成果)	1人	2人	3人	人	人	3.7
	効率性・妥当性(費用対効果)	人	3人	3人	人	人	3.5
	効率性・妥当性(計画)	人	2人	4人	人	人	3.3
	成果の活用・発展性	2人	2人	2人	人	人	4.0
	総合評価	人	4人	2人	人	人	3.7
助言・指摘事項等	<p>1 異常気象に対応できる高温耐性登熟イネ品種と栽培条件を明らかにできた成果は大きい。今後、現場への普及・定着を望む。</p> <p>2 基幹品種のヒノヒカリについて、高温による登熟不良が西南暖地の各地で報告されており、継続して普及する場合は農家への十分な指導が必要である。</p>						

課題名	「おかやま夢白桃」のブランド化のための安定生産技術の確立						
課題の概要	農業試験場が育成した「おかやま夢白桃」は、生理的落果が少なく、大果・高糖度で外観も優れていることから、新たなブランドとして有望であるが新品種（平成17年度品種登録）のため、現地での栽培年数が短く、栽培上の課題解決が必要である。そこで、本品種の特徴が安定して発揮でき、秀品率が向上する栽培技術を確立する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	1人	4人	1人	人	人	4.0
	有効性（効果）	1人	3人	2人	人	人	3.8
	有効性（目的以外の成果）	2人	1人	3人	人	人	3.8
	効率性・妥当性（費用対効果）	人	5人	1人	人	人	3.8
	効率性・妥当性（計画）	1人	4人	1人	人	人	4.0
	成果の活用・発展性	2人	4人	人	人	人	4.3
総合評価	1人	5人	人	人	人	4.2	
助言・指摘事項等	<p>1 県産モモの連続出荷を目指して、おかやま夢白桃の安定生産技術を開発できた成果は大きい。生産面積も拡大中であり、技術の普及も進んでいることが伺える。</p> <p>2 清水白桃の後に続く有望品種となる可能性が高いと感じた。農家への普及を促進していただきたい。</p> <p>3 新品種「おかやま夢白桃」の栽培技術を確立し、普及させている点は大きいと評価できる。</p>						

課題名	秋冬期の温暖化に対応したもも・ぶどうの生産安定化技術の開発						
課題の概要	モモでは樹体の充実不良と生育の前進化による低温害が課題であり、開花遅延技術を開発する。ブドウでは秋冬期の低温不足による施設栽培での発芽、生育不良が課題であり、保温や加温開始時期の目安となる自発休眠覚醒時期の予測技術を開発する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	2人	4人	人	人	人	4.3
	有効性（効果）	2人	3人	1人	人	人	4.2
	有効性（目的以外の成果）	1人	4人	1人	人	人	4.0
	効率性・妥当性（費用対効果）	1人	3人	2人	人	人	3.8
	効率性・妥当性（計画）	人	3人	3人	人	人	3.5
	成果の活用・発展性	1人	5人	人	人	人	4.2
総合評価	1人	5人	人	人	人	4.2	
助言・指摘事項等	<p>1 異常気象に対応するもも・ぶどうの安定生産技術の開発で、当初の目的は達成しており、普及活動も進んでいる。とくに、マスカットの加温開始時と休眠程度との関係から対策を示したことは評価でき、省エネ栽培にも繋がる成果である。</p> <p>2 秋冬期の温暖化に対するもも・ぶどうの栽培技術を確立し、普及させたこと、およびブドウについては休眠覚醒の予測式を作成し、普及指導センターで活用できるようにしたことは意義深い。</p> <p>3 農家レベルにおいて有効に利用できるようになれば、効果は大きいと思われる。</p>						

課題名	夏秋トマトの夏期高温化に対応した品種の選定						
課題の概要	高温環境で花粉媒介昆虫を利用しても着果率が低下し難く、裂果発生率が低く、収量が減少し難い品種を選定する。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	目標達成度	人	5 人	1 人	人	人	3. 8
	有効性 (効果)	1 人	3 人	2 人	人	人	3. 8
	有効性 (目的以外の成果)	1 人	3 人	2 人	人	人	3. 8
	効率性・妥当性 (費用対効果)	1 人	3 人	2 人	人	人	3. 8
	効率性・妥当性 (計画)	人	4 人	2 人	人	人	3. 7
	成果の活用・発展性	1 人	5 人	人	人	人	4. 2
	総合評価	人	6 人	人	人	人	4. 0
助言・指摘事項等	<p>1 夏期の高温による裂果に耐性を持つ品種を見いだすとともに、植物ホルモン処理で裂果防止が可能であることを示せた成果は大きい。</p> <p>2 技術の実用化を期待する。</p>						

課題名	モモ・ブドウの高品質果実安定生産のための施肥改善対策						
課題の概要	生産安定や高品質化のための土壌施肥管理を適正化する技術の開発を目指す。モモでは肥培管理やマルチ方法の改善による糖度向上対策、並びに改植時の土壌改良法を、ブドウでは糖度向上と礼肥の早期施用による樹勢強化対策を検討する。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	目標達成度	2 人	3 人	1 人	人	人	4. 2
	有効性 (効果)	2 人	2 人	2 人	人	人	4. 0
	有効性 (目的以外の成果)	1 人	3 人	2 人	人	人	3. 8
	効率性・妥当性 (費用対効果)	1 人	4 人	1 人	人	人	4. 0
	効率性・妥当性 (計画)	1 人	2 人	3 人	人	人	3. 7
	成果の活用・発展性	2 人	4 人	人	人	人	4. 3
	総合評価	1 人	5 人	人	人	人	4. 2
助言・指摘事項等	<p>1 県特産果樹であるブドウ、モモの高品質安定生産のための施肥改善あるいは土壌管理に関して成果を上げ、普及活動も行われている。今後も新品種が次々と投入されることになるが、事前に栽培法の一つとして、理想的な施肥・土壌管理法を提言できれば、農家の損失軽減や収入増に繋がるものと思われる。</p> <p>2 マスカット、紫苑、ピオーネ、モモの糖度向上のための施肥のしかたを確立し、普及させた点は評価できる。</p> <p>3 技術の実用化を期待する。</p>						

課題名	オリジナルリンドウの連続出荷と新作型の開発						
課題の概要	オリジナルリンドウによる連続出荷体制を確立するため、F1の早生、中生、晩生品種の育成を目指す。当面は需要が高い盆出し、彼岸出しの新品種を育成する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	2人	3人	1人	人	人	4.2
	有効性（効果）	2人	2人	2人	人	人	4.0
	有効性（目的以外の成果）	2人	3人	1人	人	人	4.2
	効率性・妥当性（費用対効果）	2人	2人	2人	人	人	4.0
	効率性・妥当性（計画）	1人	1人	4人	人	人	3.5
	成果の活用・発展性	2人	2人	2人	人	人	4.0
	総合評価	2人	3人	1人	人	人	4.2
助言・指摘事項等	<p>1 当初の目標である盆出し、彼岸出し用の岡山県に適応した新品種を育成し、普及させたことは評価できる。</p> <p>2 白花、ピンク花や晩成品種の育成法の確立など、さらに発展させてほしい。</p> <p>3 リンドウの栽培に樹皮を利用する発想は、林産材の活用にもつながり望ましい。</p> <p>4 樹皮によるコンテナ栽培における連作障害回避を継続的に研究課題とし、実証実験することは重要である。</p> <p>5 育成した品種の普及を期待する。</p>						